

学校関係者評価 様式1

平成29年度	文京区立本郷小学校	学校関係者評価報告書
評価委員：委員長 富士原 紀絵 委員 清水 智博・浅川 昇・栗田 洋・齊藤 正富・小岩井 聡		
評価時期	平成 30年 3月	
<p>1 統括的意見</p> <p>細田真司校長の的確な学校の状況把握のもと、円滑に学校運営がなされていると判断する。特別に支援を要する子供へのきめ細やかな配慮も含め、全児童の学習状況や生活状況の詳細な把握に基づく教育の内の事項に関する指導が的確になされている点、教職員の勤務時間の改善（NO残業デーを設定する等）、個人情報の保護、学校内・外の教育環境整備といった学校運営の外的事項も確実に遂行されている点、さらに細田校長が着任以来、学校内外への情報発信機能強化に重点を置き、学校運営に関する情報発信を学校運営協議会の情報も含めて保護者や地域に積極的に行うことや地域との連携の強化等、開かれた学校づくりに向け昨年度以上に成果を挙げている点も高く評価できる。</p> <p>さらに、管理職を含む教職員が教員間での取組の評価や児童や保護者の評価を踏まえ、問題を洗い出し改善策を立てるといった学校カリキュラム全体に主体的に関わる体制づくりも昨年度以上に推進している。学校教職員が一丸となり意欲的に学校経営に関わっている点も注目に値する。この体制を維持し続けることが期待される。</p> <p>学校関係者評価委員会は3回（平成29年7月10日、12月13日、平成30年2月28日）開催された。第1回目では細田校長により学校経営方針の説明が丁寧になされ、「幸せを感じられる学校～豊かな未来を創る～」というサブテーマの加わった方針の下、前年度までの成果や課題、昨今の教育課程の変化を踏まえた重点課題が示された。新しい取組として、新学習指導要領で求められている「深い学び」を実現するための手立ての検討、子供の集中力を高める工夫として昨年度着手した「本郷学習スタンダード」の取組の徹底、体作りのために導入する取組、挨拶の徹底、全児童への人権教育の徹底等を設定した理由が説明された。2回目、3回目では学校経営方針・学校教育目標の実現のために行っている取組の進捗状況について詳細な説明があり、継続的に努力していることが十分伺われた。</p> <p>今年度はコミュニティー・スクールの指定を受けて3年目となる。運営委員会への参加度が必ずしも高くないという昨年度の課題を踏まえて運営方法を改善したことによると見られるが、今年度は協議会会合や学校参観への参加が確実に増えており、委員が積極的に関与する体制づくりがなされている。次年度は細田校長のさらなるリーダーシップが発揮され、学校支援地域本部も含め「チーム本郷」として地域と一体化した学校運営体制が確立してゆくことを期待している。</p>		

2 肯定的な意見

(1) 学力向上～深い学び～に関する取組

・今年度導入を始めた「本郷学習スタンダード」は教職員間での共通実践として定着化が図られており、これを踏まえた指導を展開している。特に若手の教員には重要な指導の指針となっており、「深い学び」を実現するための大きな前提として、児童と教員双方にとって意味ある取組となっているとみられる。授業研究では教科を限定せず、全教員が深い学びの実現に向けて取り組むことで、新学習指導要領で要請される「主体的・対話的で深い学び」の展開に向け、一層実践が深化してゆくことが期待される。なお、一部教職員や保護者からもスタンダードの設定について疑問も提示されているが、本郷学習スタンダードは児童が集中力をもって学習活動を行う上での必要最低なものに精選・限定されており、むしろ設定することで落ち着いて授業に取り組むことを可能にするものであるといえる。ただし、設定されて数年であることから、児童の実態を踏まえ、教職員間で随時の見直しは必要であろう。

(2) 心身の健康に関する取組と (3) 豊かな心の育成に関する取組

・長年の懸案であった体力向上に関する取組として、今年度は学校支援地域本部のボランティアの支援も受けつつ「朝遊び」を導入した。全校児童が体を動かす物的環境には必ずしも恵まれていない中で、工夫して児童が体を積極的に動かす時間、方法を創出していることは高く評価できる。児童と教職員、そして地域が一体となって児童の体力向上を推進する体制がとられていることとともに、豊かなコミュニケーションの場ともなっており、体のみならず、心の健康にとっても好ましい影響がある。今後も継続して取組を充実させてほしい。

・読書指導の充実のために、学校図書館のみならず、地域の図書館や自宅での読書も利用したりする試み、さらに、これまで実践として「量」にこだわってきた中で「質」を重視する体制への見直しが図られている。量と質、ともに追求する試みは従来の本郷小ではみられなかった視点であり、双方の推進を期待している。

・前年度の児童の挨拶ができていない状況を課題として捉え、教師が朝から児童に挨拶指導をできる体制を整えた。挨拶は人間関係づくりの第一歩として徳育の面でも重要であり、引き続き、形式的では無く、心のこもった挨拶指導を通して徳育にも繋げて頂きたい。

(4) 安心・安全な学校に関する取組

・前年度から積極的に保護者に情報発信する工夫を行ってきた。今年度はツイッターによるタイムリーで迅速な情報提供が図られており、アクセス数も極めて高いことから保護者からも好評価を得ていることがわかる。今後も継続してほしい。

・校内環境としての安全点検の徹底、防災等子どもの危機の未然防止、早期対応といった「安心・安全第一」という方針にもとづく校長のリーダーシップが着実に発揮されている。教職員の勤務状況の改善が社会的問題となりつつある中で、今年度、管理職が勤務時間の管理・改善に取り組み始めていることは注目に値する。徹底は困難であると思われるが、教職員の意識改革も含め、着実に取り組んでほしい。

(5) オリンピック・パラリンピック教育に関する取組

・オリンピックやパラリンピックのゲストティーチャーによる授業や体験活動を充実させており、校内にはその成果を掲示している内容から、積極的に取り組んでいることがわかる。また、文京区が提携している国々の理解を深める学習も着実に進めている。

3 今後の改善に向けた意見

(1) 学力向上～深い学び～に関する取組

・「本郷学習スタンダード」について、中学校や幼稚園との共有の必要性についての意見が昨年度も今年度も出ていた。幼保小中を通じた安定した学習環境の創出のためにも、スタンダードの共有の実現化を図ってほしい。スタンダードの見直しというプロセスが必要になることもあるだろうが、その際に意見を聞くことも考えられる。本郷小が核となり積極的に進めて欲しい。

(2) 心身の健康に関する取組 (3) 豊かな心の育成に関する取組

(4) 安心・安全な学校に関する取組

・継続を期待する。

(5) オリンピック・パラリンピック教育に関する取組

・オリンピック・パラリンピック教育のあり方について、教員からも保護者からも、迎えることの意義の指導や関わった後の意味付けが必ずしも十分ではないという意見がでている。オリ・パラ教育推進の中で、一過性のイベントに終わらせず、例えば徳育を意識して、人権教育や生命尊重に関わる教育の具体的な手立ての工夫がなされることを期待している。

4 その他

学校運営協議会は本郷小の学校を支える体制基盤である。今年度の運営協議会の自己評価をみると、今年度は昨年度の課題を踏まえ、委員の参加体制に関して改善が図られたとみられ、運営委員の地域や学校への「理解」が深まっていることは好ましい状況として評価できるが、委員が全体として「建設的な提案ができる」十分なレベルにはまだ達していない。各委員は一定程度「個人的に学校運営に関する知識の習得に努める」といった努力をしている。こうした理解や努力をよりよい学校のあり方に関する具体的な提案にまでつなげてゆく、何らかの仕組み（仕掛け）が必要であろう。委員全員が何らかの提案をするに至るのは難しいが、地道に尽力することを期待している。また、自己評価項目のいくつかに見直しが必要である。

※意見が多くなる場合は、2枚以上も可。

平成29年度 学校関係者共通項目評価(まとめ)

学校名 本郷小学校

	評価項目	評価のまとめ
1	重点目標(中・短期経営目標含む)が、適切である。 (課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか)	(A)・B・C・D
2	具体的取組の設定は、適切である。 (目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか)	(A)・B・C・D
3	自己評価の分析は適切である。 (成果や課題について、分析や解釈がきちんとして行われているか)	(A)・B・C・D
4	課題に対する改善策は適切である。 (有効とされる改善策が明確に示されているか)	(A)・B・C・D
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 (学校の自己評価結果を評価するためによりやすい資料が提供されているか)	(A)・B・C・D
※各委員がつけた点を項目ごとに平均を出す (A:4~3.4以上、B:3.4未満~2.6以上、C:2.6未満~1.8以上、D:1.8未満)		